

南カリフォルニア日系合唱連盟創立10周年記念誌

2011年、その年は福島県、いや日本においても永久に忘れられない歴史に刻まれる年になりました。

3月11日、午後2時46分、永遠に続くのかと思われるような長く続く激しい揺れの始まりでした。それは、福島県の人たち、特に浜通りの人たちの生活を一変させる序章でした。

そんな2011年の9月に、私たち郡山男声合唱団ドンカラックはL.Aを訪れ、「第4回南加日系合唱祭」に参加させていただきました。

その前年5月、私たちの合唱団の副会長石山さんのお知り合いである成田先生を介して訪日したL.A Men's Glee Clubの太田さんと初めてお会いしました。太田さんは勿論のこと、当時合唱連盟の会長でありました波多江先生よりの強いお誘いもあり、9月頃には来年の合唱祭に参加しようとの気運が盛り上がっていました。

着々と準備をしております、合唱祭への準備に拍車をかけなければと考えていた矢先にあの震災に襲われました。

浜通りの津波、それによる東京電力福島第1原子力発電所事故による放射能漏れ等があり、ここ郡山にも浜通りの大熊町、富岡町などの人たちが避難してきました。市内の全ての公民館、公共施設はその人たちの臨時避難所になりました。当初、私たちはインフラのストップ、震災後の家の片付け、会社での混乱等々非日常的なものに忙殺されて練習どころではなかったのですが、少し落ち着いてきて周りを見回すと、毎週の練習会場にしていた公民館が避難所となっていて仮設住宅ができる夏ごろまで使用できないこと等が判りました。また避難なされている方々が多数ご苦労なされているときに趣味の合唱の練習をやっている場合ではないのでは、との意見も団内から上がりました。

団員の中では、9月のL.Aは無理、断念するしかないとの声が大勢を占めました。

そんな折、私のPCに太田さんからのメールで1枚の写真が添付されて送られてまいりました。

「頑張れふくしま、呑歌楽（ドンカラック）」と力強い筆字で書かれた大きな横断幕のバックにL.A Men's Glee Clubの皆さんが笑顔で手を振っている写真でした。そして、勇気を出して前に進んでくださいとのメッセージもありました。それをきっかけに、大災害から復旧、復興に向けて努力している姿をL.Aの皆さんに見ていただく、L.Aの皆さんの温かい応援、ご支援に歌うことで感謝の気持ちを伝えてこようとの気運が高まりました。

合唱仲間の練習場を借りられるようになって、音取りも毎週日曜日やっていただけのことであって準備が整いました。



合唱祭に参加させていただき、皆様方の本当に温かい友情に触れ、また会場では義援金が募られことを知り、感激をいたしました。（これは帰国後、郡山市長に直接手渡しました）

L.Aの皆さんと太平洋を挟んで厚い友情の絆を結ばさせていただいたことで、昨年FCT少年少女合唱団の子供たちが訪米し、2世祭で皆さんに歌声を聴いていただいたり、南加福島県人会の会長さんが来日した折には郡山で再会、懇親を深めたり等々、絆の輪が広がっておりますことを小川会長様はじめ南加日系合唱連盟の皆さまに心から深く感謝申し上げますと共に、たいへん嬉しく思っております。

今後も皆さまとの絆の輪がどんどん広がっていくことを期待しております。

南カリフォルニア日系合唱連盟創立10周年記念誌の発行を寿ぐと共に、15周年、20周年に向けて貴合唱連盟が益々ご発展なされることを心からご祈念申し上げます。